

## 早稲田大学 スポーツ科学部 小論文 講評

出題形式	グラフ型
試験時間	90分
特徴・その他	

## 〔大問別講評〕

出題内容	コメント	難易度
指定された円グラフが示しているもの、およびその中の項目に関して論述する。	3年ほど続いた文章・資料無し <sup>の</sup> 指示型の問題から、円グラフを用いた少々特殊な問題に変更された。この問題で気を付ける所は「何について論述するか」という事である。「図が示しているものを論述しなさい」とあるが、示すもの（つまり、A・Bの内容）をこちらで考えても、それ自体を論述するのは難しい。データとして書かれているもの（という体裁）を疑ってもしようがないからだ。解答例で言うならば、「オリンピックの開催に反対が7割」というのは、データとして出ている事実なのでそれを疑ったり、否定しても小論文にならない。まだ「なぜそうなったのか」という理由を論じるのも高得点には結びつきづらい。結局理由説明に終始してしまい、「論じる」ところまで到達できない可能性がある。ここはやはり、図の示すものを明示して、そこから考えられる論題を自分で用意して、それに対して譲歩逆接・弁証法等を駆使して論述していくのが一番無難であろう。設問の指示を踏まえつつ、自分の土俵に引き込んでしまうのだ。また、今年度入試に限ったことではないが、スポーツ科学部のアドミッション・ポリシーに沿った論述を心掛ける必要があるのは、言うまでもない。	標準

## 〔総合コメント〕

2018年度入試から、参考文章の無い問題が続いている。今年度は円グラフがあるとは言え、これは参考資料というより、より受験生のオリジナリティ・創造力を引き出すための仕掛けとも考えられるので、この4年間は本当に受験生の「思考力・判断力・表現力」を求める問題が出題されていると言える。しかしこのような問題であっても、日頃からニュースや新聞などに眼を通し、語彙力を鍛え、実際に自分で書いて指導者の添削を受けることを繰り返す等の努力を積み重ねている人と、それらをせずに何となく書いてしまう人の差ははっきりと表れるはずである。知識（語彙・時事知識・書き方の方法論含め）と演習量は裏切らない。また主要なニュース（東京オリンピック・新型コロナウイルス等）に関しても、ただ詳細や固有名詞を暗記するだけでなく、「その件に関してどのような考え方があるか・反対の考え方としてはどのようなものがあるか」という点からも、研究をしておく必要がある。
---